

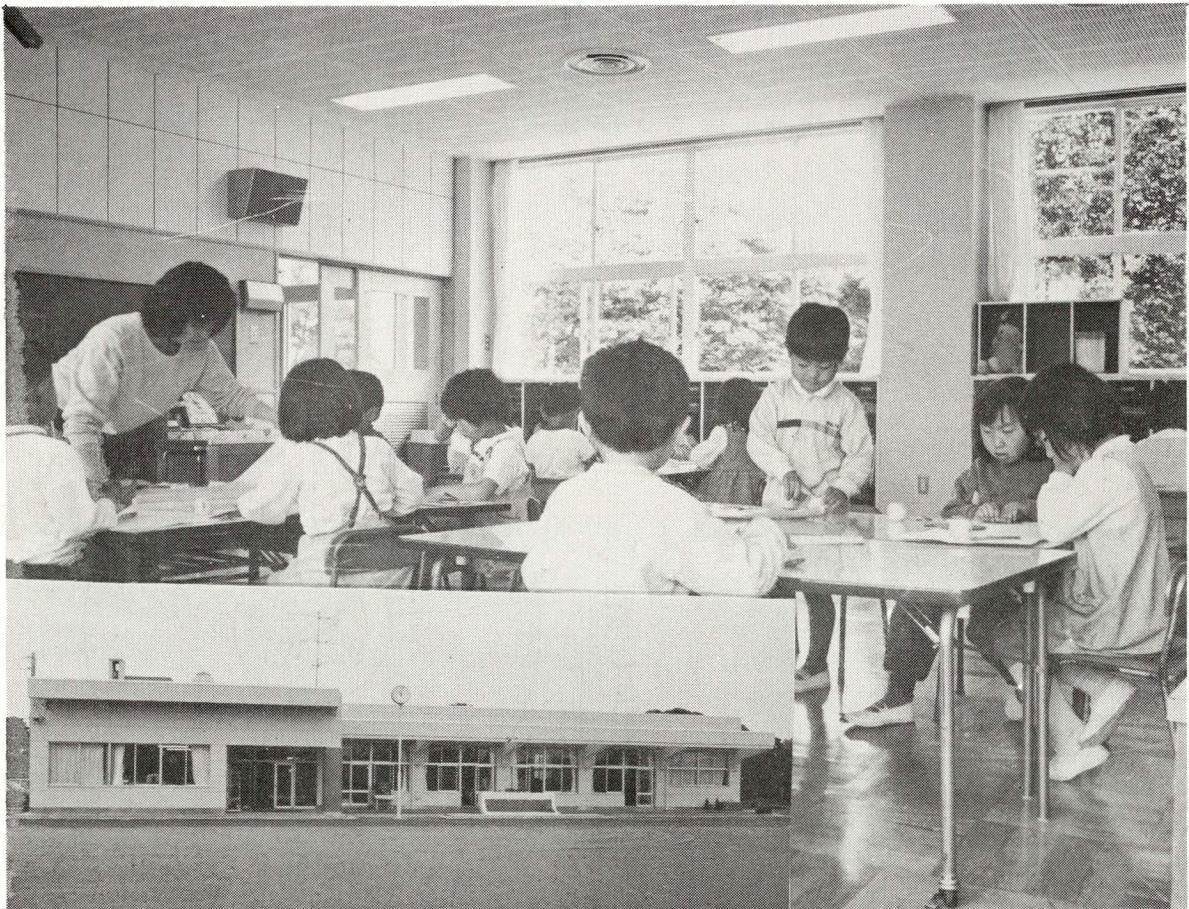
広報

昭和62年5月15日発行

麻生

No.389

'87 5



大和幼稚園が完成

まちの人口

		前月比
総人口	18,080人	-15人
男	8,953人	-14人
女	9,127人	-1人
世帯数	4,154世帯	+ 9世帯

主な内容

- 町の財政事情書-----P 2.3
- 臨時議会-----P 4
- 運動広場関係-----P 5
- 保健婦だより-----P 6

◎ 主な事業

五十一万五千円、簡水特別会計で一千二百二十九万円、公平委特別会計で二万八千円のそれぞれ追加補正を行い、また、六十一年度に新設された下水道特別会計でも四百五十五万四千円の追加補正を行っています。なお、各特別会計の最終予算は次ページのとおりです。

国・県の財政事情を反映して、町の財政運営もたいへん厳しいものとなっています。歳出の削減・合理化を進めながら、住民生活に直結した教育・道路等の予算確保を図り、歳入歳出とも均衡のとれた財政運営に努めています。

昭和六十一年度下半期（六十二年三月末日現在）の麻生町の財政事情をお知らせします。

一般会計は、当初三十一億七千五百九十七万四千円を計上しましたが、その後六千八百五十五万五千円の追加補正を行い、六十一年度の最終予算は三十二億四千四百五十二万九千円になりました。

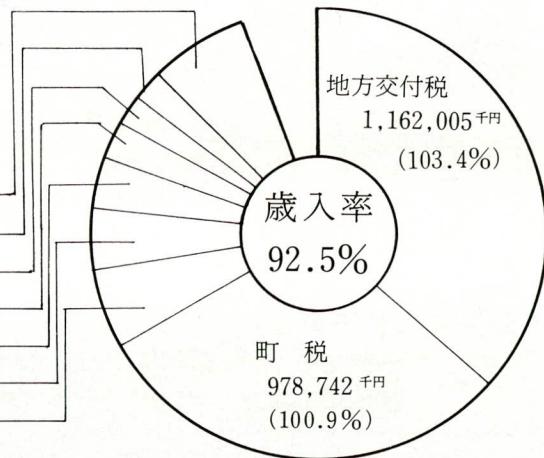
特別会計では、国保特別会計で八千六百八十一万六千円老人保健特別会計で二千三百五十一万五千円、簡水特別会計で一千二百二十九万円、公

教育施設の整備として、麻生一中屋体の改修、大和幼稚園の改築、運動広場の整備などが進められました。土木関係では、生活関連道路の整備として、今宿・天掛・四鹿・石神地内ほかで道路改良事業が行われました。農業関係としては、豊かで魅力ある農業環境の整備をめざし、新農業構造改善事業、喜平台農道改良事業などが行されました。

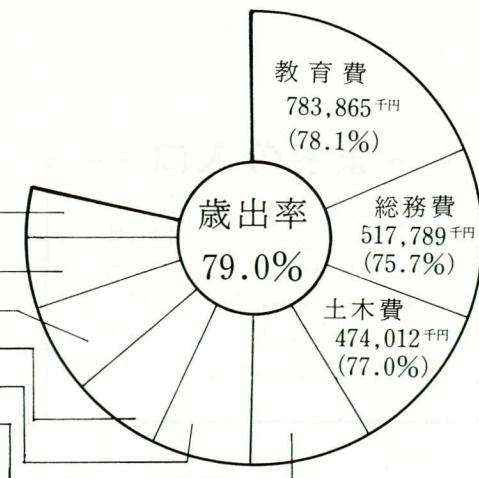
生活環境の整備では、第二簡水事業の給水工事などが進められました。

(1) 一般会計予算

数字は予算額
(%)は執行率



予 算 額	3,244,529 千円
町の収入	3,000,658 千円
町の支出	2,561,702 千円



(3) 町の財産

(1) 土地及び建物

名 称	土 地	建 物
庁 舎	6,160m ²	1,933m ²
学 校	249,845	32,275
公 営 住 宅	21,580	4,391
そ の 他 の 施 設	232,522	6,349
山 林	99,879	—
そ の 他	42,810	535
白 帆 荘	3,869	2,017
合 計	656,665	47,500

(2) 出資による権利

登 錄 国 際 担 保 権	5,000千円
第一勧業銀行株券	136
県中央食肉公社株券	8,470
県労働者信用基金協会出えん金	800
県勤労者育英基金出えん金	380
県信用保証協会寄託金	1,400
県信用保証協会出えん金	6,598
県福祉事業団出資金	143
県農業信用基金出資金	3,940
農業用廃プラスチック処理公社出資金	590
県漁業信用基金協会出資金	600
県家畜衛生指導協会出資金	220
空中散布事業事故損害扶助基金出資金	667
県建設コンサルタント出資金	50
白帆荘改築出資金	40,000
県国保診療報酬支払基金預託金	1,071
工業技術振興基金出えん金	282

(3) 基 金

財 政 調 整 基 金	338,486千円
土 地 開 発 基 金	116,172
し 尿 处 理 場 建 設 基 金	109,495
國 民 年 金 印 紙 購 入 基 金	58,464
診 療 報 酬 支 払 準 備 基 金	78,364

(4) 町民の税負担

税 目	町 全 体			一世帯の 調定額
	調定額	収入済額	収入率	
町 民 税	446,677千円	404,168千円	90.5%	107,762円
固定資産税	404,611	398,042	98.4	97,614
軽自動車税	15,230	14,937	98.1	3,674
特別土地保有税	14,278	10,974	76.9	3,445
国民健康保険税	554,192	532,003	96.0	170,521

(2) 特別会計予算

(%) は予算に対する執行率

1. 国民健康保険

予算額	1,181,191千円
収入	1,063,407千円 (90.0%)
支出	1,000,884千円 (84.7%)

2. 簡易水道事業

予算額	509,812千円
収入	89,540千円 (17.6%)
支出	67,682千円 (13.3%)

3. 老人保健事業

予算額	738,637千円
収入	696,059千円 (94.2%)
支出	653,664千円 (88.5%)

4. 公平委員会

予算額	305千円
収入	306千円 (100.3%)
支出	138千円 (45.2%)

5. 下水道事業

予算額	100,465千円
収入	18,364千円 (18.3%)
支出	100,142千円 (99.7%)

6. 白帆荘運営事業

事業収益予算額	248,000千円
収入	215,101千円 (86.7%)
事業費用予算額	248,000千円
支出	222,863千円 (89.9%)

(4) 町債 ○一般会計債

種 類	未 債 還 額
庁 舎 建 設 事 業 債	668千円
公 営 住 宅 事 業 債	32,972
都 市 計 画 事 業 債	80,849
臨 時 地 方 道 整 備 事 業 債	394,740
新 規 新 町 村 整 備 事 業 債	12,213
消 防 施 設 整 備 事 業 債	13,678
小 学 校 債	678,037
中 学 校 債	45,236
幼 稚 園 債	50,577
社 会 教 育 債	87,736
保 健 体 育 債	144,888
合 計	1,541,594

○特別会計債

種 類	未 債 還 額
白 帆 荘 建 設 事 業 債	9,274千円
簡 易 水 道 建 設 事 業 債	631,705
下 水 道 債	94,900
合 計	735,879



第一回臨時議會

麻生町議会第二回臨時会が
四月十日開かれました。

を求めてゐたのです。

〔報告第一号〕

麻生町税条例の一部を改正する条例について、実施期日切迫のため、議会を招集する暇がなかったので専決処分をし、これを議会に報告し承認

一般被保険者証、退職被保険者証、老人被保険者証、そして今年から発行予定の国保資格証明書など多種多様になっていきます。国保資格証明書とは、国民健康保険事業の運営上、欠かすことのできない國保税を滞納している被保険者に対して、従来の保険証を返してもらう代わりに発行するものです。国保資格証明書で治療を受けますと、従来は

診察料の三割を支払うだけです。よかつたのですが、全額支払うことになります。そして後日、役場保健衛生課の国保係に申請して、七割の払い戻しを受けることになります。

医療機関でも、保険証の種類が多く、事務的に混乱を招く恐れがあります。医療機関で診療を受けるときは、自動車を運転するときに免許証を携帯するのと同じように、必ず保険証を提示してください。

なお、国民健康保険について、疑問な点がありましたら保健衛生課国保係までお気軽にご相談下さい。

六月一日は、人権擁護委員法が施行された日です。昭和二十四年六月一日に人権擁護委員法が施行され、国民の基本的人権を擁護し見守る、言わば民間人による人権の番人の機関が誕生したのです。これが人権擁護委員制度の始まりです。

保険証の提示を

国保からのお知らせ

〔東洋第一号〕
麻生町税条例の一部を改正する条例

字根小屋二二四一が、四月十三日任期満了となるため助役に再任するにあたり、議会の同意を求めるものです。

▼受験資格 飯食店営業・魚介類販売業・喫茶店営業・そ
う菜製造業等で二年以上調理業
務に従事した方。

名・電話番号を記入のうえ、
左記の場所に六月三十日まで
に申込みください。

人権擁護委員制度を ご存知ですか

お互いに人権を守つて明るい社会をつくることが、私たちの願いです。

○久保田勝造（四鹿五四四）
○小峰光（宇崎七九八）
電話 七三一三五五八
電話 七三一一二二〇一

調理師試験の

一
九

町民運動広場

野球場とテニスコートの 貸出しを開始

南地区に建設が進められて

南地区に建設が進められて
いた、麻生町民運動広場の一
部施設の整備が完了し、来る
六月一日から一般の皆さんに
貸出ししが開始されます。

- 野球場 A面 (両翼 90m)
- 野球場 B面 (両翼 80m)
- テニスコート
- (クレーコート二面)

許可申請書で申し込む。
申請書は、教育委員会にあります
が、押印が必要なため
印かんを持参して下さい。
※ 使用が許可された者には

使用料は、申し込み時に前納していただきます。金額は別表のとおりです。
なお、次のような場合は、「使用料減免申請書」を提出

完成した野球場 A面

施設使用料 ↓

○野 球 場

	午 前	午 後	1 日
野 球 場 (A)	5 0 0 円	5 0 0 円	1 , 0 0 0 円
〃 (B)	〃	〃	〃

○テニスコート

〈団体申込〉 コート 1面 2時間につき500円。
〈個人申込〉 リ 2時間につき 1人100円。

保健衛生課長宮内務（町民課長）、福祉年金課長飯田敏雄（教育委事務局長）、町民課長茂木敏（公民館長）、出納室長柏崎日出夫（議会事務局長）、企画觀光課長野村文男（出納室長）、建設課長羽生東洋夫（環境課長）、環境課長根本拡吉（給食センター所長）、教育委事務局長箕輪徳（福祉年金課長）、公民館長糸賀洋一（白帆荘支配人）、給食センター所長久保田喜治（税務課長）、白帆荘支配人平山喜一（環境美化センター）

し、使用料の全額または、半額の免除を受けることができるます。

① 町及び教育委員会の主催による各種大会、体育行事
（全額免除）

② 町内各種団体、機関等が行う体育行事等で町が後援する場合（全額免除）

③ 町内の小学生・中学生が使用する場合（全額免除）

④ 官公署又は、公益団体が公益事業のため使用するとき（半額免除）

⑤ 町長又は、教育委員会が特に必要と認めた場合（全額免除）

職員の異動

五月一日付()は旧所属

參事兼總務課長永作英夫、議會事務局長伊藤伸一郎（

參事兼總務課長永作英夫、議會事務局長伊藤伸一郎（企画觀光課長）、經濟課長深

館係長小島邦男（建設課土木係長）、環境美化センター係長柏葉忠良（税務課固定資産税係長）

館係長小島邦男（建設課土木係長）、環境美化センター係長柏葉忠良（税務課固定資産

橋量光（公民館係長）、公民

改良係長)、建設課土木係長
根本博義(保健衛生課国保係
長)、教育委學校教育係長高

センター係長）、保健衛生課
国保係長新橋進（経済課土地

稅務課固定資產稅係長高才俊
博（稅務課徵收係長）、稅務

經濟課 土地改良係長 小倉博
昭（教育委學校教育係長）、
稅務課 固定資產稅係長 高木俊

所長)、環境美化センター所長篠塚一郎(経済課長)



67人のお母さんに聞きました。

母の職業	あり 46%	なし 54%
お年寄りと同居	あり 75%	なし 24%
昼の主な保育者	母親 51%	祖父母 49%
添い寝	はい 88%	いいえ 12%
夜子供の動きで目がさめる	はい 93%	いいえ 4% 不明
育児で疲れている	いいえ 82%	はい 13% 不明
父親の育児協力	はい 97%	いいえ 3%

こんなことは
ありませんか

三 子どもとともに成長を
学ぶ親。子どもは家庭の中
で、親のすることをいつも
見て、います。親の働く姿、
学ぶ姿、ひとつひとつが子
どもの手本になるのです。
四、親の態度が子どもにこん
な影響を与えます。
下の表をご覧下さい。

とです。よその子と比べて
はいませんか。子どもはほ
められたいと思っていま
す。ほめられると、子どもはや
る気をおこすものです。

月児健康診査において、六十七人のお母さんに育児に関するアンケートを行いました。表のよう、働く母親が半数を占め、育児に充分な時間

を費せない事を感じると同時に、朝夕という短い時間の中で、子どもにどう接すれば親としての役割をはたせるのか、子どもの成長・変化の中で考えさせられるところです。

子は親をうつす鏡

保健婦だより

11

こんな親に

（親の性格）

(子供の性格)

放任的な親	拒否的な親	支配的な親	服従的な親	民主的な親
<ul style="list-style-type: none"> ・ほめも叱りもしない。 ・冷淡 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対し無関心 ・子どもを邪魔に思う。 ・子どもをにくむ。 ・子どもとの接触を避けたがる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の考え方を子どもに押しつける。 ・子どもの意志は、ほとんど無視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盲愛 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがある。 ・子どもに対し、適切な助言・禁止をする。 ・子供の意見を入れてやる。
↓	↓	↓	↓	↓
<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断が自己中心 ・反抗的・わがまま 	<ul style="list-style-type: none"> ・劣等感・情緒不安定 ・攻撃的 ・注目されたいため、思いついたことをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活気に乏しく、神経質 ・情緒不安定。 ・表面では服従するが、内心では欲求不満になり攻撃的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信過剰 ・人の注目を引きたがる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒安定 ・他人との協調性がある。 ・親切で思いやりがある。 ・善惡の判断が適切で、社会的に適応。



宇崎農村集落センター

地域住民のコミュニティーの場として、各地区に建設が進められている集落センターが、昭和六十一年度は宇崎地区に建設され、四月三日関係者多数が出席して竣工式が開かれました。

宇崎農村集落センターは、農村集落センター整備事業として建設されたもので、地元に建設委員会（高野宗明会長）が組織され、地元の皆さんを中心となり事業が進められました。すでにセンターの運営要項なども決まり、ふれあいの場として、さかんに利用されています。

宇崎地区に 集落センターが完成

社教だより

「麻生の文化」
第18号を発刊

(34)

前納報奨金

税の窓

(34)

固定資産税及び町県民税については、前納しますと一定の前納報奨金が交付されます。

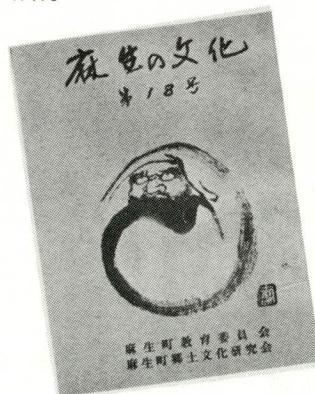
前納とは、納期が到来した税額をその納期内に納付するとき、納期末到来の税額を同時に納付することをいいます。前納した場合、前納しようとする期別の税額に対して、1%が前納に係る月数分だけ交付されます。（ただし、10万円が限度）

実際に前納しようとする場合には、1期分の納付時に2期3期4期分を前納する場合を想定して、納付書に前納報奨金の額が記載されていますから、この分を差引いて納付して頂くことになります。

節税の方法として、是非ご利用下さい。なお国保税は目的税ですから前納報奨金の規定はありません。

「麻生の文化」第18号が発刊されました。麻生の文化は、麻生町郷土文化研究会の皆さんによって編集されており、町の歴史や文化その他の歴史資料を後世に残しました、研究発表の場として発刊されています。希望される方には、有償で配付しています。1部 1,000円 配布場所は、麻生町公民館。

「麻生の文化」
第18号



くらしの豆知識

取引に関する知識

今回から取引に関する事例を問答形式にして何回か掲載しますので参考にして下さい。

問1 電話による勧誘に対し「はい」と返事をしてしまったが、口約束なので、まだ契約は成立していないと思うが。

答 電話の場合に限らず、契約は「申込み」に対して「承諾」という意思表示することによって成立する。意思表示の合致があれば形式は問わずたとえ口頭でも契約は成立するので、当事者は契約の内容に拘束される。電話での勧誘

などで、契約の内容について十分な説明を受けずに返事をさせられた場合など、契約は不成立とみなされる場合もある。

問2 考え直したら不要な気がしてきたので、契約をやめたいが一方的に解除できるか。

答 法律上の解除が認められている場合、契約内容で認められている場合のほかは、話し合いにより合致して解除するしかない。いつたん結んだ契約をやめることは容易なことではない。

問3 十八才の学生である娘が知らないうちに約四十万円もする商品を日々五千円の分割払い購入していることがわかつたがやめさせたい。

答 法定代理人（主に両親）の同意のない未成年者の契約は、本人又は法定代理人によつて取消すことができる。契約が取消されると、初めからなかつたことになり、支払ったお金は全額返してもらい、商品を返すことになる。未成年者の契約の取消しの場合、現に利益を受ける限度で返せばいい（民法百二一条）ことになつてある。使用したものがつても使用料等払うことなくそのまま返せばよい。処分を許された財産の処

麻生の文芸

俳句

椎森になだれかかりし桜かな
鳥は啼き花散る処羽黒山
城跡にほづつ揃え土筆かな

短歌

春一番黄昏る頃おさまりて
夜空にゆれる月影仰ぐ

粒の数孫に問われて年豆を
六つ食べしと言ひてあざむく

水郷の田面きわだち光り初む
なかに休耕田見えて寂しき

俚謡

若い頃には喧嘩もしたが
深い絆の夫婦愛
水がぬるめばついさそわれて
川の浅瀬で魚すくい
恋の黒髪みだれて濡れて
海女の乳房に春の潮

金田	手賀	鴨下
とく	たつ	政隆
金田	稻川	宮本
みつ	良穂	晃
	兼平	小沼
	男庭	あやめ

消費者問題

消費者行政推進協力員

が窓口に連絡してくれるのが、問題を、行政施策に反映させるため、町や県の消費者行政

が知らないうちに約四十万円もする商品を日々五千円の分割払い購入していることがわかつたがやめさせたい。

答 法定代理人（主に両親）の同意のない未成年者の契約は、本人又は法定代理人によつて取消すことができる。契約が取消されると、初めからなかつたことになり、支払ったお金は全額返してもらい、商品を返すことになる。未成年者の契約の取消しの場合、現に利益を受ける限度で返せばいい（民法百二一条）ことになつてある。使用したものがつても使用料等払うことなくそのまま返せばよい。処分を許された財産の処

あめでとうございます

戸籍の窓口

赤ちゃん	保育者
山口 伶史	定夫
奥村 麗豊	豊一郎
中山 和香	松男
福田 彩	泰司
岡野 和也	一彦
中山 未来	正則
和田 ともみ	茂
作山 知美	和哉
横山 純一	一
磯山 悠哉	彦
小沼 絵理	彦
斎藤 弘行	一
宮内 義和	則
高野 齋藤	正
浜田 千右	一
柏葉 久喜	彦
羽生 69	一
長峰 69	一
高野 81	一
羽生 81	一
軍司 81	一
とく 92	一
義敏 甚	一
保寿 甚	一
弘行 甚	一
絵理 甚	一
裕哉 甚	一
知美 甚	一
和哉 甚	一
正彦 甚	一
和也 甚	一
一彦 甚	一
正則 甚	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一
作山 一	一
横山 一	一
磯山 一	一
小沼 一	一
斎藤 一	一
宮内 一	一
高野 一	一
浜田 一	一
柏葉 一	一
羽生 一	一
長峰 一	一
高野 一	一
羽生 一	一
軍司 一	一
とく 一	一
義敏 一	一
保寿 一	一
弘行 一	一
絵理 一	一
裕哉 一	一
知美 一	一
和哉 一	一
正彦 一	一
和也 一	一
一彦 一	一
正則 一	一